

# 令和5年度認知症介護指導者 フォローアップ研修実施報告書

令和6年3月



社会福祉法人 東北福祉会  
認知症介護研究・研修仙台センター

# 目 次

## 1. 研修の概要

- 1) 認知症介護指導者フォローアップ研修開催の経緯 ..... 1
- 2) 令和5年度認知症介護指導者フォローアップ研修の目的と達成目標 ..... 2
- 3) 認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会の設置 ..... 2
- 4) 認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会設置規定 ..... 3
- 5) 認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会【委員名簿】 ..... 4

## 2. 令和5年度認知症介護指導者フォローアップ研修の実施状況

- 1) 令和5年度第1回認知症介護指導者フォローアップ研修の日程とカリキュラム ..... 5
- 2) 令和5年度第2回認知症介護指導者フォローアップ研修の日程とカリキュラム ..... 7
- 3) 令和5年度第1回・第2回認知症介護指導者フォローアップ研修の評価 ..... 9
  - 認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会から ..... 18

## 3. 第1回講義資料 .....19

## 4. 成果物（改善内容報告シート・講義計画書・演習計画書） ..... 128

## 5. 第2回講義資料 .....165

## 資料

- 令和5年度認知症介護指導者フォローアップ研修募集要項 ..... 222
- 令和5年度認知症介護指導者フォローアップ研修参加状況【道县市別受講者一覧】 ..... 230
- 令和5年度認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会議事録（要旨） ..... 231

## はじめに

認知症介護指導者フォローアップ研修は、認知症介護指導者養成研修を修了した指導者の方々を対象とし、最新の認知症介護に関する専門的な知識や指導方法等の習得を目指しています。従来、対面の研修を基本としてきた研修でしたが、近年では受講の利便性や学習効率性を考慮しオンラインを交えた研修方法を実施してきました。

ご参加いただいた認知症介護指導者の皆様、各道県市の担当者の皆様、検討委員の皆様、講師の皆様をはじめ関係各位のご協力をいただき無事に完了いたしましたことをご報告申し上げ、厚く御礼申し上げます。

当センターでは認知症介護指導者の方々を中心としたカリキュラム検討委員会において検討を重ね、効果的な研修方法やカリキュラム内容を企画し実施いたしました。

1 回目の研修はオンラインと集合型を組み合わせたブレンド型の研修方法とし、新カリキュラムに対応した授業の設計を中心に実施しました。2 回目は、全ての研修をオンラインで実施しましたが、講師と参加者同士のディスカッションの機会を増やし、相互に刺激しあいながら学習の深化を目指したプログラム構成としました。いずれの研修方法も、参加者から高い評価をいただき、関係者各位のご協力とご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

また、受講生をご派遣いただきました関係者の皆さまには深くお礼を申し上げます。

フォローアップ研修では、今後も一層、指導者の方々が研鑽できる場となるよう、誠心誠意努めて参りたいと存じます。

引き続き皆様のご指導、ご助言をいただければ幸いに存じます。

令和6年3月

フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会委員長 **阿部 哲也**

# 1. 研修の概要

## 1) 認知症介護指導者フォローアップ研修開催の経緯

平成 12 年度から認知症介護指導者養成研修は実施されたが、修了者の間では当初からセンターでの養成研修修了後、地域の実務者研修（現在は「実践研修」、以下同じ。）を実施する上で継続的な研修と情報交換の場の必要性がささやかかれていた。特に平成 12 年度、13 年度に関しては、標準カリキュラムは提示されていても、各地域とも新しい形態による研修スタイルの具体的なイメージがつかないまま、手探りの状態で研修の企画・運営を行っていた。

そのような状況の中で、修了者の有志が集まって実務者研修の実施状況を情報交換していこうと、平成 14 年 8 月に青森県で仙台センター指導者養成研修修了者による自主的な継続研修が実施された。これは実際に青森県における当時の基礎課程の日程と平行して行い、参加者は基礎課程の見学もしながら、お互いに都道府県・政令市の研修状況や課題を報告して行うというものであった。その後、平成 14 年 10 月に第 2 回研修（北海道帯広市）、平成 14 年 12 月に第 3 回研修（広島県）が行われるなど、自主的な研修が広がっていった。内容も情報交換だけではなく、研修内容や具体的な展開方法についての話し合いが中心になっていった。さらに平成 15 年 8 月に第 4 回研修（徳島県）、平成 15 年 11 月に第 5 回研修（宮城県仙台市）が、テーマを決めた講義と分科会形式で実施され、熱心な討議が行われた。

こうした修了者の自主的な研修の動きと、継続的な研修の必要性について、仙台センターとしても国へ働きかけていった結果、「認知症介護の効果的研修システムの開発～認知症介護研究フォローアップ体制の構築～」として、平成 16 年 3 月に認知症介護研究・研修東京センターにおいて、モデル事業であるフォローアップ研修が実施され、平成 16 年度よりフォローアップ研修は制度的研修として本格的に実施されることとなった。

それと同時に、フォローアップ研修の実施にあたって、その効果的なカリキュラム、研修方法及び評価方法の検討を行うため、仙台センターにフォローアップ研修カリキュラム等検討委員会を設置することとし、認知症介護指導者養成研修修了者にも委員として参画してもらうことで、修了者のニーズに基づいた研修の実施を進めている。

## 2)令和4年度認知症介護指導者フォローアップ研修の目的と達成目標

### 目的

本研修は、認知症介護指導者養成研修修了者に対し、一定期間ごとに最新の認知症介護に関する高度な専門的知識等を修得させるとともに教育技術等の向上を図ることにより、第一線の認知症介護従事者に対して最新の専門的な認知症介護技術を的確に伝授できる体制を整備することを目的とする。

「認知症介護実践者等養成事業の実施について」（平成28年3月31日老発第0331第2号厚生労働省老健局長一部改正通知）の別紙「認知症介護実践者等養成事業実施要綱」4（6）による

### フォローアップ研修の達成目標

- (1) 最新の認知症介護の知識と指導方法について理解を深める。
- (2) チームアプローチとリーダーシップ、スーパーバイズ、コーチングを中心に、認知症介護における人材育成方法を修得する。
- (3) 認知症介護における課題解決の具体的方法を修得する。
- (4) 認知症介護研修における効果的な授業の企画・運営のあり方、研修の教育評価方法を修得する。

## 3)認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会の設置

研修の実施にあたって、修了者のニーズに基づいた研修を行うために、仙台センターの修了者を含めたフォローアップ研修カリキュラム等検討委員会を設置することとした（P3「フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会設置規程」参照）。

検討委員は、認知症介護指導者ネットワーク会員より2名、今年度本研修を受講する認知症介護指導者2名、認知症介護研究・研修東京センター修了生1名、認知症介護研究・研修大府センター修了生1名、有識者1名、および仙台センター研究・研修部スタッフ8名の構成とした（P4「カリキュラム等検討委員会委員名簿」参照）。その役割としては、①効果的なカリキュラム ②研修方法 ③評価方法 ④その他フォローアップ研修に関する必要な事項について検討することとした。

検討委員会の設置規定と令和5年度の検討委員名簿は次の通りである。

## 4) 認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会設置規定

認知症介護研究・研修仙台センター

### (目的及び設置)

第1条 認知症介護研究・研修仙台センター（以下、「仙台センター」という。）における認知症介護指導者養成研修修了者を対象とした認知症介護指導者フォローアップ研修を実施するに当たり、その効果的なカリキュラム、研修方法及び評価方法の検討を行なうため、仙台センターに認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会（以下、「検討委員会」という。）を設置する。

### (構成員)

第2条 検討委員会は、次に掲げる者を委員として構成する。

- (1) 仙台センター  
センター長、副センター長、研究部長、研修部長、研修推進係長、研修指導係長、研修指導主任、研修指導係
  - (2) 認知症介護指導者養成研修修了者
  - (3) 有識者
- 2 前項第2号第3号の委員は、センター長が委嘱する。

### (委員長及び副委員長)

第3条 検討委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により定める。ただし、委員長は仙台センターより選出する。

- 2 委員長は、検討委員会の会務を掌理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

### (所掌事務)

第4条 検討委員会は、仙台センターにおける認知症介護指導者フォローアップ研修に関し、次の事項について検討する。

- (1) 効果的なカリキュラム
- (2) 研修方法
- (3) 評価方法
- (4) その他、認知症介護指導者フォローアップ研修に関し必要な事項

### (会議)

第5条 検討委員会は、その年度内に3回程度開催するものとする。

- 2 検討委員会は、仙台センター長が招集する。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

### (庶務)

第6条 検討委員会の庶務は、仙台センター研修部で処理する。

### 附 則

この規程は平成16年7月28日から施行する。

- 平成17年4月1日一部改正
- 平成18年4月1日一部改正
- 平成20年4月1日一部改正
- 平成22年4月1日一部改正
- 平成30年4月1日一部改正
- 令和3年4月1日一部改正
- 令和4年4月1日一部改正

## 5) 認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会【委員名簿】

### 認知症介護研究・研修仙台センター

#### 令和5年度認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会【委員名簿】

時 田 学	有識者	日本大学
○佐 藤 真	(13期生・秋田県)	合同会社スイーダ
阿 部 一 志	(36期生・鳥取県)	介護付き有料老人ホーム翠のさと
木 村 むつみ	(43期生・札幌市)	小規模多機能型居宅介護つむぎ
橋 本 好 博	(18期生・福島県)	グループホームすずらんあかり
田 中 恵 子	(37期生・福岡市)	社会福祉法人ふくおか福祉サービス協会
川 添 揚 一	(48期生・堺市)	クロストリップ合同会社
加 藤 伸 司	認知症介護研究・研修仙台センター	
◎阿 部 哲 也	認知症介護研究・研修仙台センター	
吉 川 悠 貴	認知症介護研究・研修仙台センター	
森 下 久 美	認知症介護研究・研修仙台センター	
合 川 央 志	認知症介護研究・研修仙台センター	
田 村 みどり	認知症介護研究・研修仙台センター	
櫻 庭 由 紀	認知症介護研究・研修仙台センター	
佐々木 昌 治	認知症介護研究・研修仙台センター	

◎委員長 ○副委員長

※敬称略

## 2. 令和5年度認知症介護指導者フォローアップ研修の実施状況

### 1) 令和5年度第1回認知症介護指導者フォローアップ研修の日程とカリキュラム

(オンライン及び仙台センター)

日	時間	科目名	講師名	概要
9/14 (木) オンライン研修	9:00～ 9:20	開講式	仙台センター	
	9:20～ 9:50	事務連絡 科目アンケートの説明 フォローアップ研修のねらい	櫻庭 由紀 佐々木 昌治 合川 央志	フォローアップ研修の全体像を理解し、研修への動機づけを高める。
	10:00～ 10:50	最新の認知症介護知識 ～これまでのケアと これからのケア教育～	加藤 伸司 (仙台センター)	認知症ケアの歴史を振り返り、これからの認知症ケアの進むべき方向性について理解する。
	11:00～ 14:45	最新の認知症介護知識 ～認知症の人の 意思決定支援～	川崎 裕彰 (高齢者権利擁護支援センター)	認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて理解を深める。
	14:50～ 15:20	グループワーク 質疑応答		
	15:30～ 17:10	最新の認知症介護知識 ～認知症医療の最新知識～	加知 輝彦 (社会福祉法人 仁至会)	認知症の原因疾患、若年認知症、早期発見、ワクチン等の最新知識を理解する。実際の実践研修場面での課題についてディスカッションを通し理解する。
	17:10～ 17:45	グループワーク 質疑応答		
	17:45～ 18:00	振り返り	(仙台センター)	
9/15 (金) オンライン研修	9:00～ 9:30	認知症介護における効果的な授業開発 ～実践研修企画と運営～	合川 央志 (仙台センター)	実践研修科目の検討について概要を理解する。希望により、実践者科目担当と実践リーダー科目担当に分かれて、検討する科目を確定する。
	9:30～ 10:30	認知症介護における効果的な授業開発 ～実践者研修～	矢吹 知之 (高知県立大学)	実践者研修の概要と流れを理解する。
	10:40～ 12:00	認知症介護における効果的な授業開発 ～実践リーダー研修～ ～基礎研修～	阿部 哲也 (仙台センター)	実践リーダー研修の概要と流れを理解する。 基礎研修の改定内容に関する情報提供
	13:00～ 14:00	認知症介護における人材育成方法 ～実践研修の報告～	田村 みどり (仙台センター)	道県市で実施されている実践研修の状況等についてグループワークにて共有する。



日	時間	科目名	講師名	概要
	14:00～ 18:00	認知症介護における課題 解決の具体的方法 ～実践研修科目の検討～ (科目内容の検討)	(検討委員)  仙台センター	実際に各地域で行われる予定の実践研修科目 (新カリキュラム科目)の内容について作成す る。(個人作業)(グループに分かれて進捗状況 等の中間報告の時間を含む)
9/20 (水) 仙台セ ンター	9:00～ 14:20	認知症介護における人材 育成方法 ～授業法～	上條 晴夫 (東北福祉大学)	効果的な授業法の理解と解りやすく伝えるた めの方法および講義・演習計画を作成する上 でのポイントを学ぶ。
	14:25～ 15:00	グループワーク 質疑応答		
	15:10～ 18:00	認知症介護における 効果的な授業開発 ～実践研修科目の検討～ (科目内容の検討)	(検討委員) 仙台センター	実際に各地域で行われる予定の実践研修科目 (新カリキュラム科目)の内容について作成 する。
9/21 (木) 仙台セ ンター	9:00～ 14:20	認知症介護における 課題解決の具体的方法 ～演習技法～	後藤 美香 (アライブ・ワン)	多様な演習技法を学び、実践研修等で効果的に 活用できる演習技法について検討する。
	14:25～ 15:00	グループワーク 質疑応答		
	15:10～ 18:00	認知症介護における 効果的な授業開発 ～実践研修科目の検討～ (科目内容の検討)	(検討委員) 仙台センター	実際に各地域で行われる予定の実践研修科目 (新カリキュラム科目)の内容について作成す る。
9/22 (金) 仙台セ ンター	9:00～ 15:30	認知症介護における 効果的な授業開発 ～科目検討内容報告～ ～実践研修の授業設計～	時田 学 (日本大学) (検討委員)	作成した講義演習計画書についての報告を行 い、共有を図る。 実践研修科目の最終的な内容をふまえ、より効 果的な授業を実施する上でのポイントや、解り やすく伝えるための講義・演習方法を理解す る。
	15:40 ～16:00	最新の認知症介護知識 ～研修評価～	吉川 悠貴 (仙台センター)	研修の評価に関する情報提供
	16:05 ～ 17:05	認知症介護における人材 育成方法 ～実践研修の報告～	田村 みどり (仙台センター)	道県市で実施されている実践研修の状況等につ いてグループワークにて共有する。
	17:10～ 17:40	研修総括	仙台センター	アンケート記入
	17:45～	修了式	仙台センター	

## 2)令和5年度第2回認知症介護指導者フォローアップ研修の日程とカリキュラム

(オンライン)

日	時間	科目名	講師名	概要
2/6 (火)	9:00～ 9:20	開講式	仙台センター	
	9:20～ 9:50	事務連絡 科目アンケートの説明 フォローアップ研修のねらい	櫻庭 由紀 佐々木 昌治 合川 央志	フォローアップ研修の全体像を理解し、研修への動機づけを高める。
	10:00～ 10:50	最新の認知症介護知識 ～これまでのケアと これからのケア教育～	加藤 伸司 (仙台センター)	認知症ケアの歴史を振り返り、これからの認知症ケアの進むべき方向性について理解する。
	11:10～ 12:00	認知症介護における課題解決の具体的方法 ～指導者としての活動共有～	田村 みどり (仙台センター)	各地域での指導者としての活動内容に関する情報交換をグループワークにて行い、指導者の役割等についての理解を深める。
	13:00～ 15:30	最新の認知症介護知識 ～認知症の人の 意思決定支援～	川崎 裕彰 (高齢者権利擁護支援センター)	認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて理解を深める。
	15:40～ 16:30	グループワーク 質疑応答		GWにて講義内容に関する気づき、疑問点、質問内容を整理し、講師への質疑応答にて理解を深める。
	16:40～ 17:00	振り返り	(仙台センター)	
2/7 (水)	9:00～ 11:00	認知症介護における人材育成方法 ～人材育成の方法(リーダーの育成)～	井戸 和宏 (株式会社IDO)	次世代及び現リーダー等に対し、モチベーションを持たせながら、職場を辞めない組織づくりと人材育成の方法について理解する。
	11:10～ 12:00	グループワーク 質疑応答		GWにて講義内容に関する気づき、疑問点、質問内容を整理し、講師への質疑応答にて理解を深める。
	13:00～ 14:40	最新の認知症介護知識 ～認知症医療の最新知識～	加知 輝彦 (社会福祉法人仁至会)	認知症の原因疾患、若年認知症、早期発見、ワクチン等の最新知識を理解する。
	14:50～ 15:30	グループワーク 質疑応答		GWにて講義内容に関する気づき、疑問点、質問内容を整理し、講師への質疑応答にて理解を深める。
	15:40～ 16:00	振り返り	(仙台センター)	
2/8 (木)	9:00～ 16:15	認知症介護における効果的な授業開発 ～授業法～	上條 晴夫 (東北福祉大学)	効果的な授業法の理解と解りやすく伝えるための方法および講義・演習計画を作成する上でのポイントを学ぶ。オンラインでの授業の工夫点について理解する。
	16:20～ 17:00	グループワーク 質疑応答		講義で学んだ内容について、実践研修講師、サポーター等地域活動や職場教育での場面等での活用方法について個人ワークを行い、その後GWにて共有後、講師との質疑応答を行う。

日	時間	科目名	講師名	概要
2/12 (月)	9:00～ 14:00	認知症介護における人材育成方法 ～パーソン・センタード・ケア～ ～DCM (認知症ケアの評価)～	水野 裕 (まつかげシニアホスピタル・ 認知症疾患医療センター)	パーソン・センタード・ケアの理念の基、認知症ケアでの重要点や、考え方について理解を深める。また、認知症ケアの質の向上を目的とした、認知症ケアマッピング (DCM) について理解する。
	14:10～ 15:00 15:10～ 16:00	グループワーク 質疑応答		講義で学んだ内容に関して、GWにて振り返り気づきの整理を行う。その後、引き続きGWにてパーソン・センタード・ケアを実践するうえでの課題や疑問について講師も交えディスカッションを行う。
2/14 (水)	9:00～ 16:15	認知症介護における課題解決の具体的方法 ～演習技法～	後藤 美香 (アライブ・ワン)	多様な演習技法を学び、実践研修等で効果的に活用できる演習技法について検討する。
	16:20～ 17:00	グループワーク 質疑応答		講義で学んだ内容について、実践研修講師、サポーター等地域活動や職場教育での場面等での活用方法について個人ワークを行い、その後GWにて共有後、講師との質疑応答を行う。
2/16 (金)	9:00～ 10:20	認知症介護における効果的な授業開発 ～実践者研修～	矢吹 知之 (高知県立大学)	実践者研修の新カリキュラム概要と流れを理解する。
	10:30～ 12:00	認知症介護における効果的な授業開発 ～実践リーダー研修～ ～基礎研修～	阿部 哲也 (仙台センター)	実践リーダー研修の新カリキュラム概要と流れを理解する。 基礎研修の改定内容に関する情報提供
	13:00～ 14:00	グループワーク 質疑応答		GWにて講義内容に関する気づき、疑問点、質問内容を整理し、講師への質疑応答にて理解を深める。
	14:10～ 14:30	最新の認知症介護知識 ～研修評価～	吉川 悠貴 (仙台センター)	研修の評価に関する情報提供
	14:40～ 15:50	認知症介護における課題解決の具体的方法 ～指導者の活動課題解決～	田村 みどり (仙台センター)	今後の指導者としての活動に向けた課題についてグループワークにて情報共有し、解決方法について検討する。自自治体への指導者に対して、研修内容を伝える内容を整理する。
	16:00～ 16:40	研修総括	仙台センター	アンケート記入
	16:45～ 17:00	修了式	仙台センター	

(オンラインZoom)

### 3)令和5年度第1回・第2回認知症介護指導者フォローアップ研修の評価

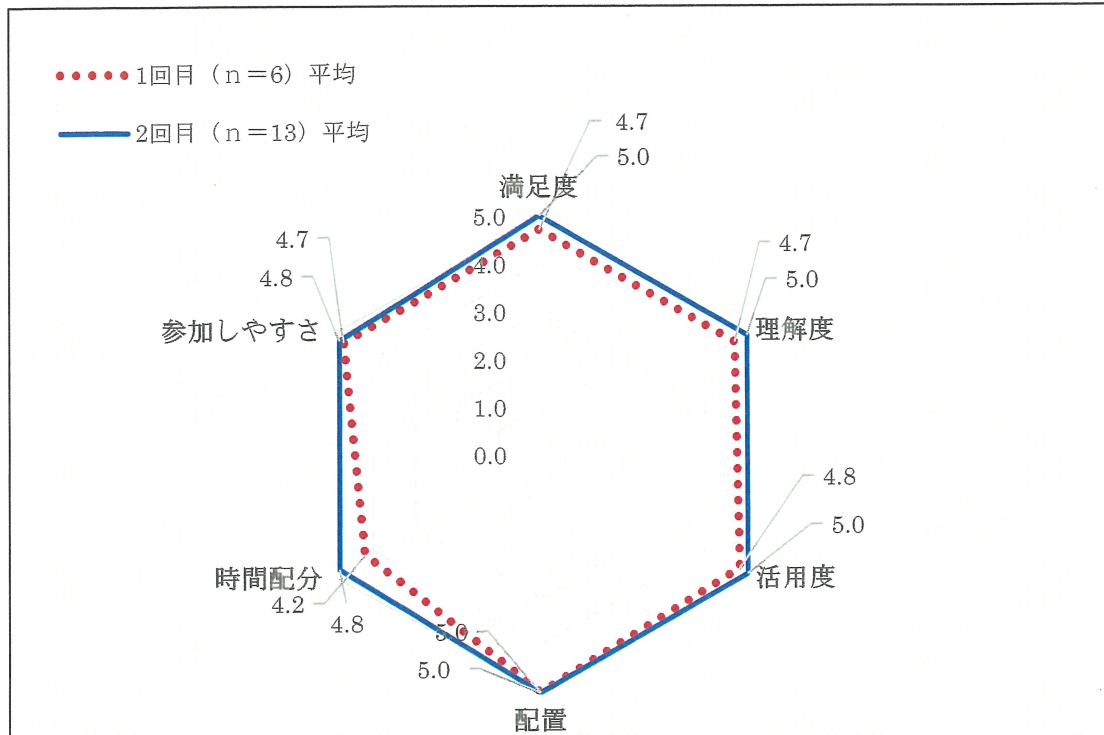


図1 令和5年度フォローアップ研修全体アンケートの結果（第1回目・2回目比較）

・今年度は、第1回目を初の試みとなるオンライン開催（2日間）と集合型（3日間）のブレンド型と、第2回目は昨年度同様オンライン（Zoom）で開催した。

また、昨今認知症介護指導者の活動も認知症介護実践研修における講師役のみならず、地域等における認知症ケアの実践及び助言等で活動されている方々も増えていることを鑑みて、第1回を従来どおりの講義計画作成の実践的内容、第2回を認知症ケアの理念や授業設計法の学び直しに重きを置いた内容として、希望する内容を選択して受講できる開催方法とした。

- ・研修内容の満足度及び理解度は第1回目・2回目共に高い結果であった。「認知症の人の意思決定支援では、意思決定支援ガイドラインのポイントも分かり、実践者やリーダー研修で伝えるポイントが理解できた」「最新の認知症施策や授業法など、指導者として知っておくべきことの理解が深まったと思う」などの意見や、第2回目の「パーソン・センタード・ケア」の講義は、「これまで自分が理解していた概念と違った」「正しいパーソンセンタード・ケアの考え方が理解できた」との意見が多くあった。
- ・研修内容の活用度は第1回目・2回目共に高い結果であった。「指導者養成研修の時とは違って、一つ一つの科目を理解でき、これからの研修講義に活用したていきたいと思った」「講義の組み立て方が良く分かったので、今後の活動に活用できるといった」等の意見が見られた。
- ・各科目の配置（順番）時間配分に関して、第1回目の成果物作成に関しては、もう少し時間が欲しいとの意見が多く見られた。
- ・参加しやすさに関して、第1回目・2回目共に概ね高い評価であった。特に第1回目のブレンド型は集合までに時間が空くので、やることの準備や頭の整理ができて良かったとの意見が多く見られた。

■自由記述結果抜粋

【1】「今回の研修内容に満足はできましたか」(検討が必要と思われる点と解決方法)
【第1回目自由記述内容抜粋】
私自身は2日リモート、3日集合でちょうどよかったです。ただ、離れがたい。仙台です。
情報交換でも出ましたがもう少し授業計画の時間が欲しいと思いました。
ズームと集合の形は、初めてとの話ではありましたが、実際には、コロナの最中の49期の研修は、後期がズームになり、今の逆バージョンのように感じます。 全日程がズームでは、伝わらない研修もあると感じていますので、対面でしっかり行う事が必要な科目を選別し、ズームとの組み合わせが理想(移動・宿泊等を考慮しても)と考えます。集合研修では、心強い仲間を得られる点でも、無くすことはしないでいただきたいと思います。(講師の皆様には、できる限りご迷惑をおかけしないよう最低限の決まりを作っていただいても仕方がないと思います<(_)>)
自分が追い付いていけないところがあり、時間が必要と感じる研修もありました。
個人的にはとても有意義なフォローアップ研修でした。しいて挙げさせていただくなら、初日の加知先生の「認知症医療の最新知識」がお話を聞くばかりでつらかったです。新薬の情報や国の動向などをもう少し砕いた形でお話していただくと、より理解が深まったと思います。
【第2回目自由記述内容抜粋】
週2日、月を跨いでの日程だとうれしい。時間はこれでちょうどいい。オンラインのため声が聞こえずらい先生がいた。(こもる感じ)まるっきり聞こえないわけではないので、講義は問題なかったが、改善できればよい。(オンラインで実施する上改善は難しいと思いますが)
内容について特に見直しが必要と感じたものはありません、どの科目もまさにフォローアップいただける内容だと思います。
最後のまとめにも出ておりましたが、施策に関する内容があると今後の講義に活かせると考えられますので、時間が取れると良いなと思います。 個人的には虐待に関する内容が入っていると良いのかなと感じております。大事な部分であり、受講者へ伝える際に「ここだけは」というポイント等を改めて知る機会があると良いかと思いました。
1回目と内容が違っているというお話をお聞きして、1回目も参加して見たかったと思いました。
研修間隔については、個人の好みにもよりますが、私は集中して講義を受けたいタイプなので特段問題なかったです。
内容についてはとても学びになり満足しています。前半の3日続けて現場を空けるのが、業務的には少し大変な部分がありました。週に2日程度を3週に分けての方が参加はしやすいと思いました。
研修が2週間に集約されていたため事業所によっては週に2日等していく必要がある。
個人的なことですが、オンラインではグループワークが多いと正直しんどいと思いました。指導者同士であっても「誰が司会をするか」「誰が書記をするか」など探りさぐりで時間ももたないのと、早く終わってしまったときの沈黙が気恥ずかしいです。司会や書記を指定(名簿順等)していただくと、全員話ができるので、話始めの時間が短縮できると思います。
たまたまなのだが、第1回のハイブリット研修の日程と自身の実践者講義の日が重なってしまった。日程は各道県、政令市で異なる為、仕方がないが残念だった。

いろいろな角度の研修内容だったので、受講者としては飽きが来なかったです。振り返りの時間では、講義内容を消化できないままに質問タイムだったので、もう少しセクションを狭めて確認タイムがあると整理しやすかったかもしれません。

【2】「研修内容に関して理解を深めることができましたか」(検討が必要と思われる点と解決方法)

【第1回目自由記述内容抜粋】

事前に必要なものをしっかり伝えて頂ければ嬉しいです。

今の受講体制で十分理解を深めることが出来ました。

ズームと集合研修のつながりを意識できるようにすることがあれば、時間を有効に使う事ができたと思います。自身の自覚が不足していたのが問題点だったと感じています。

自分に不足していることに対して、少し解決の方向にむかったかな？と思っています。

実践者・リーダー両研修の流れが理解できたことがよかったです。指導者となってから実践者・リーダーともに1回しか講義をしておらず、全体の研修構成をみる余裕がなかったのが実情です。

【第2回目自由記述内容抜粋】

最後に振り返りと質問タイムがあることで、理解を深めることができた。この内容で問題ない。

講義を受けた後で自身の担当部分の講義資料の修正はしたいと感じました。

グループワークをこまめに入れて都度の振り返りを行う手法は良いと思います。

各講義において振り返りの時間が設けられており、その時間があることで落とし込みができたり、自分が聞き漏らしていた点などを知ることができたので、今後もあると良いかと思っています。

事前作成(+事前読み込み)でもよいので個人ワークやレポートを持ち寄った上でのグループワークなど、興味がある

アンケートだけではなく、1講義が終わった後、簡単な振り返りテストを行ったら良いのかと感じました。

リフレクションに関しては、グループ共有の前に個人で少し時間をとり、振り返りや内容を整理をする時間があれば良かったと感じました。

オンラインであってもグループワーク等の時間をとってくださっていたので自分なりに理解を深める事ができました。

講義で使用する事例集等があると使いやすく理解が深まる。

オンラインだと、先生の声が聴きづらいことがありました。電波状況も関係しているのかもしれませんが…解決方法としては字幕をつけるとかいいマイクを使ってもらうとか非現実的なことしか思いつかないのですが、例えば録画した映像をオンデマンドで見れるようにすれば、「あ～こんなことを言われていたのか」など振り返ることができると思います。

どの講師のお話も興味を引くもので話も聞きやすいと感じました。

自身で言語化してみる。実践してみる。他の人がどのように解釈しているのか？を聞いてみて正しい理解をしているのか確認してみる。

### 【3】「研修内容は今後の活動に活用できるものでしたか」(検討が必要と思われる点と解決方法)

#### 【第1回目自由記述内容抜粋】

リモートの良さが勉強になったので、活用していきたいが、まだまだ、実施主体のサポートもあまりできていないことが多く、不安。

先生方から教わった様々なことを帰ってから今後の活動に活用していきたいと思います。

フォローアップ研修の意義や、どんな内容が行われるかなど解る様にしていただけると、参加者が増えると思います。

他受講生とのディスカッションやグループワークでの話を踏まえ、少しでも活用できるものを見つけられました。

地域で活躍している指導者のお話を聞きたかったです。認知症カフェ、サポーター養成研修など。また、行政との連携についてもお話が聞きたいと思います。

#### 【第2回目自由記述内容抜粋】

早速北海道・札幌の指導者に研修報告をおこないたい。

自らの意識改革を行う必要があるという認識は持てました。

各科目共に知識・技術・工夫点などが沢山講義の中にちりばめられており、とても分かりやすいと共に、自身が不足している点の気づきと修正につなげられると思いました。希望として、時間が限られているので難しさはありますが、フォローアップ研修を受講されている方が担当する科目の講義資料を確認する時間があっても良いかと思いました。他者の資料をそのまま使うということではなく、言葉だけでなく資格でも工夫点などを知る機会としてあるとありがたいなと思いました。

知識や経験の偏りが生じない同じテーマを元に、仮プレゼンを行い相互に評価するような演習(オンラインという制約があるという点はさて置き、の話です)

今回の内容にもありましたが、人材育成について、もっと細かく講義をして頂くとと思います。認知症の指導も大切ですが、普通に人材育成にも繋がると思います。

難しい事は理解していますが、指導者なら、いつでもフォローアップ研修の内容(ビデオ)が見れるような環境があっても良いと感じます。(DC ネット上などで)

伝える事に重きを置き過ぎず、受講生が理解しやすい環境(内容だけでなくアイスブレイクや演習を含む講義の順番等)も大切だと学ぶことができました。

指導者の活動事例があると分かりやすい。

認知症介護実践研修においては、やはり講義の内容について深めていけると今後に活かせると思いました。また、指導者の活動事例等があると、「こんな役割があるんだ」「こんなやり方があるんだ」と今後に活かせると思いました。

後藤先生の講義のように実際に講義のように話をしてみたり、演習だけでも考えてみたりなどすると講義に直結するのではないかと思います。

実践しながら、こういうことなのかな？と受講生と一緒に悩んで、考えていきたい。

**【4】「各科目の配置(順番)は適切でしたか」(検討が必要と思われる点と解決方法)**

**【第1回目自由記述内容抜粋】**

加藤先生の講義と被るところがあるので、加藤先生の講義は集合研修でして欲しい。

科目の順番は適切で、講義計画書を作成する際にたくさん助けられました。

特に順番に関しては問題を感じませんでした。

**【第2回目自由記述内容抜粋】**

特に不具合等を感じられませんでした。

今回の流れは個人的にはとても学びやすい順番だったかと思います。

頭が真っ白にならないよう、プログラムが組まれており、とても参考になりました。

特に講義内容の順番については、この内容で特に問題はないと感じました。

分かりやすく特に順番は変えなくても良い。

とても聞きやすい順番だったと思います。休憩も多くとっていただき、講義ごとに新鮮な気持ちで受講できました。

なぜ、この科目なのか？は関心があるが、配置は特に気にならなかったです。

**【5】「各科目の時間配分は適切でしたか」(検討が必要と思われる点と解決方法)**

**【第1回目自由記述内容抜粋】**

矢吹先生や、阿部先生のところの講義が短すぎる。

時間は適切で集中して取り組みやすかったです。

計画書の作成など、時間を要するものに対しては、もっと時間が欲しい。もしくは、ズーム研修の課題でもよかったです。

**【第2回目自由記述内容抜粋】**

時間の配分についても程よいと思います。延べの6日間も妥当だと思う。自分としては3日連続の2週間開催が良いと思います。(自分も周囲も良い意味で自業務にあきらめがつくと思います。)

矢吹先生の時間がもう少し長くても良かったかなと思いました。



特に、最終日の実践者研修、リーダー研修の講義の科目毎に時間をとって詳しく勉強する時間を多くとって欲しいです。
実践者・リーダー研修の概要や講義ポイントの部分は、もっと科目時間があっても良いと感じました。
個人的には最終日の授業開発の講義についてもう少し時間があり取り組めたら良かったと感じました。それでもズームだと難しいと思うので、その部分だけでも中四国の指導者は中四国地方で集まり、授業開発の講義を行える環境づくりが出来れば、その後の共有や発表はズームで行なっても良いのではと思いました。
他県の指導者との話し合う時間がたくさんあり良かった。
グループワークが多いと逆に長く感じました。
受講前は1日同じ講義は長いのではないかと感じていましたが、いざ受講すると1日必要な講義だと感じました。
百戦錬磨の講師の先生方なので、与えられた時間の中で構成を練られて、授業していると思いますので、特に異論はございません。

<b>【6】 フォローアップ研修の中で、今後必要とされる内容について</b>
<b>【第1回目自由記述内容抜粋】</b>
ZOOM 研修での工夫や、講義設計
講義計画書の作成の時間をもう少しだけ増やして頂きたい。
授業計画をする時間をもう少し増やしてもらえると嬉しいです。
受講生に対し、予め、研修内容など希望を聞いていただけると有難いです(悩みとか)
全国の指導者さんたちとの情報交換や研修の進め方など知る機会があればと思いました。
<b>【第2回目自由記述内容抜粋】</b>
内容が充実していたと思いますので、具体的にはございません。
指導者として世情も含め何でも一定水準の知識が必要だと感じました、経済や哲学などがあっても面白いと思います。
まとめにもありましたが、日程的な面での工夫があるとより受講しやすいかと思います。「2日間で1週おきに開催する」「月またぎで週に3日間+1日おき」などそれぞれの事情があるのですべてに対応するのは難しいですが・・・(※時間数は適切かと思います)
(他の方からも前出ですが)最新の動向や知識について
課題設定の進め方について、詳しく講義して頂きたいです。
新しい制度や法律に関しての周知や理解しやすい内容での説明をお願いしたいです。

今回の内容で満足しています。
認知症基本法等の法的関係の講義
知識や技術はもちろん大切だと思いますが、ある程度、経験則で講義を進めたり地域活動したりすることもあると思うので、経験談なんかがあると面白いと思います。また、指導者の利点についても深めていけるといいなと思いました。現状、自己研鑽以外に利点が見出せないところがあります。認知症専門ケア加算もⅠとⅡの差も1単位しかないですし・・・
各地域ごとの特徴や取り組みをまとめて教えてほしいです。

【7】研修形態について、参加しやすいと思うか(そう感じた理由と、改善点)
【第1回目自由記述内容抜粋】
仕事もあるので助かりました。
オンラインでの良さ、集合研修の良さなど改めて感じました。どちらにしる時間を割かないといけないことは変わりないですが、このような形の研修もありだと思えます。
オンラインでしたら仕事の合間に参加しやすいのでとても良かったです。
集合研修の日程が、参加しやすい。
無理に集合型としなくても、オンラインで対応できるものはオンライン対応でよいと思えます。参加はしやすかったです。
【第2回目自由記述内容抜粋】
移動時間がかからないため。
オンライン研修であれば、業務を行いながら受講できるのでよかったと感じました。週2回程度のほうが、より受講しやすいのではと感じました。
当初はやりづらさの方が強かったですが、慣れてくれば問題はないように感じました。
職場から参加できること、移動時間がないこと。
通信環境が悪くなる場合もありますが、事業所を離れなくても良いことで自身の業務を継続できる点は良いかと思えます。一方で離れて集合型で他受講者の方との交流の時間を持つ利点は捨てがたい点があるためです。
感染症リスクの回避⇒研修日程に追加してさらに数日間、日常業務に穴を開けるわけにはいかないので。多少の体調不良があった場合でも、欠席することなく自宅などで出席が可能なため
本来なら、仙台まで足を運んで研修を行うのが良いと思えますが、各施設の事情もあると思えますので、オンラインも良いと思えます。
集合研修では、宿泊する事や移動時間も考慮しなくていけないので、普段の生活に近い環境下で受講出来るのが良かったと考えます。

岡山から仙台に研修に行くには研修日とは別に、行く日帰る日にそれぞれ1日かかるので、ズームだと研修日のみで済み業務の支障が少ないため。
遠くでも参加しやすく感染症を気にすることがないから。
集合だと自分も事業所も割り切れますが、オンラインだと何となく休みがとりにくいです。オンラインであれば、やはり週に2日程度がもっと参加しやすいのかもしれませんが。
仙台までの移動が無いので、時間的な制約は少なくなる為、参加はしやすい。ただ集合研修と違って休憩時間や研修前後に何気なく他の受講生と話をすることが出来ないのは残念。
zoomに不慣れでしたが、徐々に慣れて慣れてきたせいか、違和感も薄れてきたかもしれません。また、慣れさせるための工夫も多く、そのあたりは十分配慮して準備されているなと感じました。

<b>【8】 フォローアップ研修についてのご意見・ご要望等について</b>
<b>【第1回目自由記述内容抜粋】</b>
研修センターの前の道が夜暗すぎてこわいです。
最初はとても不安でしたが、参加出来た事はとても良かったと今は思います。授業のブラッシュアップもそうでしたが、集合研修で顔を合わせて行い直に聞けることの良さを味わいました。参加するためには現場を離れ対応しないといけないことが課題ですが、自分自身の向上のためにはとても良い機会だと思います
今回は6名でしたが他の県の指導者の方と出会い、たくさんの情報交換でき良かったです。また繋がることも出来ましたので今後もこのネットワークを大切にしていきたいと思います。本日は自分たちのためにいろいろと準備をして下さりありがとうございました。
特にありません。大変ありがとうございました。次回また、胸を張って来られるよう、老体に鞭打って頑張ります。(._.)
5日間ありがとうございました。仙台での学びに感謝しています。
自分自身が指導者としての経験が浅いまの受講でしたので、他の受講生の方との経験値の差を感じました。受講生の指導者としての活動や講義回数などにばらつきがないほうが良いのかもしれませんが。
<b>【第2回目自由記述内容抜粋】</b>
このたびは、このような機会をいただき感謝申し上げます。指導者研修を修了し14年が経つ私からいたしますと、本当に貴重な学びの時間でした。さまざまな事柄に対して振り返るきっかけと気づきをいただき、反省する時間をいただきました。やはり、フォローアップ研修の目的にもあるように、当該指導者研修を修了した後、一定期間ごと(3年から5年程度)に受講させていただくことが、より効果的に感じました。ありがとうございました。
講義や演習の内容や他指導者の方の意見を聞いて振り返りの機会となりました。余裕のなさから伝えることに必死になっていることを再認識しました。改めて受講生の立場を考えながら担当をしていきたいと思いました。
研修スタッフの皆様には日々よい研修にするため頑張っておられることと存じます。あらためて感謝申し上げます。

今回の研修も大変学べることが多くあり、また、他受講者の方との交流と現況を知ることができとても有意義な6日間でした。ありがとうございました。

また、今後も各自治体から定期的に受講者が多く出てくると良いなと思いますので、微力ではありますが宮城県内の他受講者へも積極的に働きかけていきたいと思っています。

今回6日間の研修でしたが、最初は以前参加された講師から、「とても大変だよ」と聞かされていたため、出来るのだろうかと不安でしたが、1日1日終了する度にこの状況になれてきて、参加して良かったと強く思いました。今回はズームでの繋がりでしたが、今回のメンバーと直接あって話して、お酒を飲みたいとなあと思うメンバーでとても良かったと思います。6日間有難うございました。

現場を空けるのが難しい現状ですが、今回のフォローアップ研修は自分の成長につながると感じたので、定期的に参加してみたいと思いました。毎回職場を5日～6日空けるのは難しいので、テーマ別でももう少し日数が少ないフォローアップ研修があっても参加する側は参加しやすいのではと思いました。

自分が認知症介護養成研修を受講した時よりも進め方等変化している。その変化にいかにか柔軟に対応し最新知識を入れるか自分自身も勉強し進化していかないといけないと感じた。今回の学びを県内指導者と共有し認知症ケアの推進に力を入れていきたい。センターの皆さん6日間ありがとうございました。

集合がいい・オンラインがいい、と様々な意見があるので、なかなか集約できないと思いますが、選択肢の一つとして出張(出前)もありなのかなと思いました。全体を通して、本当に勉強になりました。

極端に理解度の低い受講生(取組後の報告で合格させられず、指導の上、再取組みをしても理解できていないような人)についてどのようにしたら良いのか伺いたい。良いところを見つけてあげようとするがこの人を合格させたら・・・とってしまう。

センターの皆様や、同期、仙台市の指導者など、顔見知りも多く、心強かったです。急遽、センターで受講させていただき、ご迷惑をお返しました。ご対応ありがとうございました。

## 認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会委員から

このたびの令和 6 年能登半島地震により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。被害の甚大さに、心が痛みます。一日も早く復興されますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の分類が引き下げられたと言え、まだまだ介護現場では感染予防対策等で大変ご苦労をされていることと思います。またロシアによるウクライナ侵攻の影響も続いており、生活に直撃するような物価高や光熱費の高騰が依然と続きいま、ケアを提供する現場の不安定な状況が続いています。ケアを提供する側の物理的、精神的な安定がケアの質にも関わってくると思われるため、すべての人に「それぞれの当たり前の生活」が一日でも早く訪れるよう、そして世界に平和が戻る日をお祈りいたしております。

令和 5 年度の認知症介護指導者フォローアップ研修の目的は「認知症介護指導者研修修了者に対し、一定期間ごとに最新の認知症介護に関する高度な専門的知識等を習得させるとともに教育技術等の向上を図ることにより、第一線の認知症介護従事者に対して最新の専門的な認知症介護技術を的確に伝授できる体制を整備することを目的とする」として、第 1 回を令和 5 年 9 月、第 2 回を令和 6 年 2 月に開催いたしました。第 1 回はオンライン研修と集合型研修のハイブリット型（ブレンド）にて開催し、第 2 回はオンライン分散型で研修を開催しております。フォローアップ研修では、第 1 回目の研修では指導者が認知症介護実践者研修・実践リーダー研修等における各科目のブラッシュアップを目的にカリキュラムが構成され実施されております。また第 2 回目は同じく指導者が各地域でより多く活動するためのスキルアップ・人材育成等のためのカリキュラムが構成され実施されました。研修に参加された指導者の皆様は最新の情報を身に付け、また各地域での活動状況等を情報交換し、これからの活動への大きな成果を得られておりました。ご参加されて指導者の皆様のこれからの活躍を祈念いたします。

さて、令和 5 年度認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会は、阿部哲也委員長をはじめとした、仙台センターの諸先生方、仙台センター、東京センター、大府センター修了指導者及び有識者が委員として参加され、研修内容やまた研修の開催のあり方など幅広い視点で検討しております。またハイブリット型研修・オンライン分散型研修の良さや今ある形をより良くするための改善点等がいくつかあげられ、両研修についての有効点や改善点、また更に受講しやすくするために課題点なども検討しております。

ぜひ今年度のフォローアップ研修実施報告書の内容を精読し、認知症介護指導者の活動における実践者研修・リーダー研修また各地域等で活用いただければ幸いです。

令和 6 年 3 月

認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム等検討委員会 副委員長 佐藤 真